

関節リウマチの治療薬 プラリアについて



「関節リウマチ」は、 全身の関節に原因不明の炎症(腫れ)がおこり、 関節(骨)が壊れていく病気です。



関節リウマチは、関節のまわりで強い炎症がおこる病気です。はじめは痛みや腫れがあらわれ、次第に関節(骨)が壊れていき、最終的には関節の変形に至ります。その結果、日常生活が不自由になる可能性があります。

● 関節リウマチの主な症状

朝のこわばり

朝起きたときに関節のこわばった感じ、ぎこちない感じがします。



関節の痛み・腫れ

指や手首などの小さな関節に起こりやすく、左右両方の手首が同時に腫れるなどの特徴があります。複数の関節に起こります。



特徴的なX線像

関節のX線を撮ると、虫食いの跡のように見えます(骨びらん)。また、関節の隙間がせまくなってきます。



皮下結節・検査値異常

後頭部・おしり・ひじなど、物があたりやすい場所に盛り上がったこぶのようなものができることがあります。また血液検査でリウマトイド因子や抗CCP抗体が検出されることがあります。



写真提供: 渥美 達也先生

炎症が進んで、 一度壊れてしまった関節(骨)は、 もとに戻らなくなってしまいます。

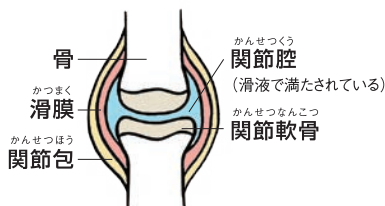


関節リウマチになると関節の滑膜に炎症がおこり、滑膜細胞が増殖します。さらに進行すると関節(骨)が壊れてしまいます(関節破壊)。

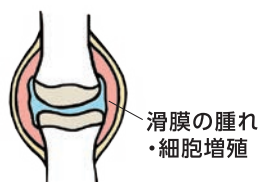
一度壊れてしまった関節(骨)は、もとに戻すことができません。

● 関節の状態

正常な関節



初期の関節リウマチ



進行した関節リウマチ



● 関節破壊の進み方

手の状態



早期
(1~2年)

進行期
(3~10年)

関節破壊の進行

X線写真



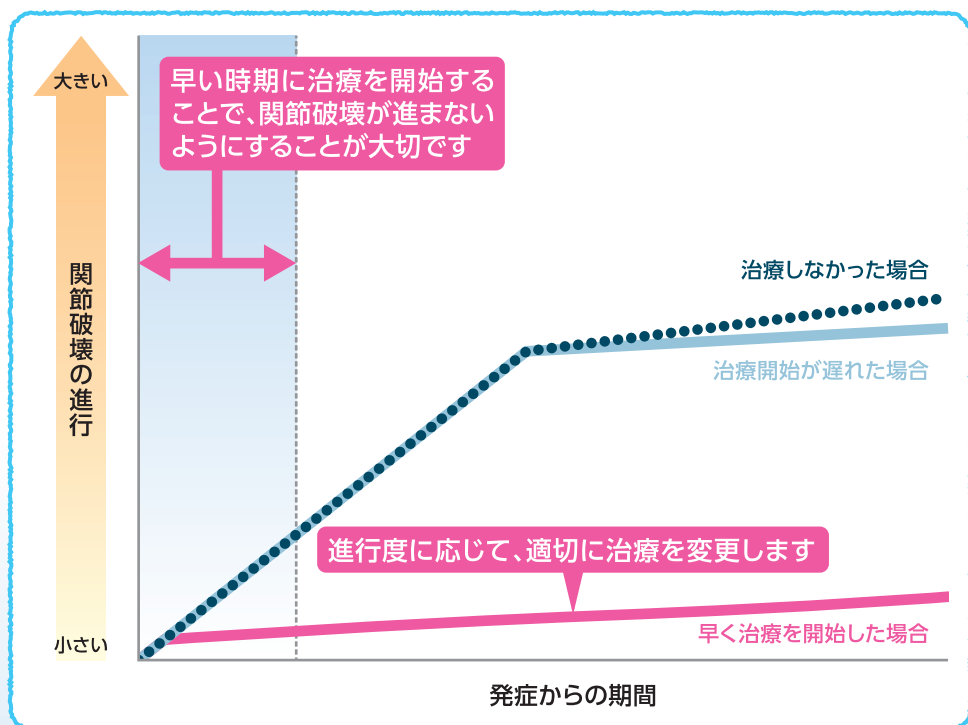
写真提供: 渥美 達也先生

早期のうちに適切な治療を開始して、関節(骨)が破壊されないようにすることが大切です。



関節(骨)の破壊は、関節リウマチ発症後(1~2年)で急速に進行してしまいます。そのため、関節リウマチの治療はできるだけ早く開始し、関節の破壊が進まないようにすることが大切です。

● 治療の開始時期とその後の経過



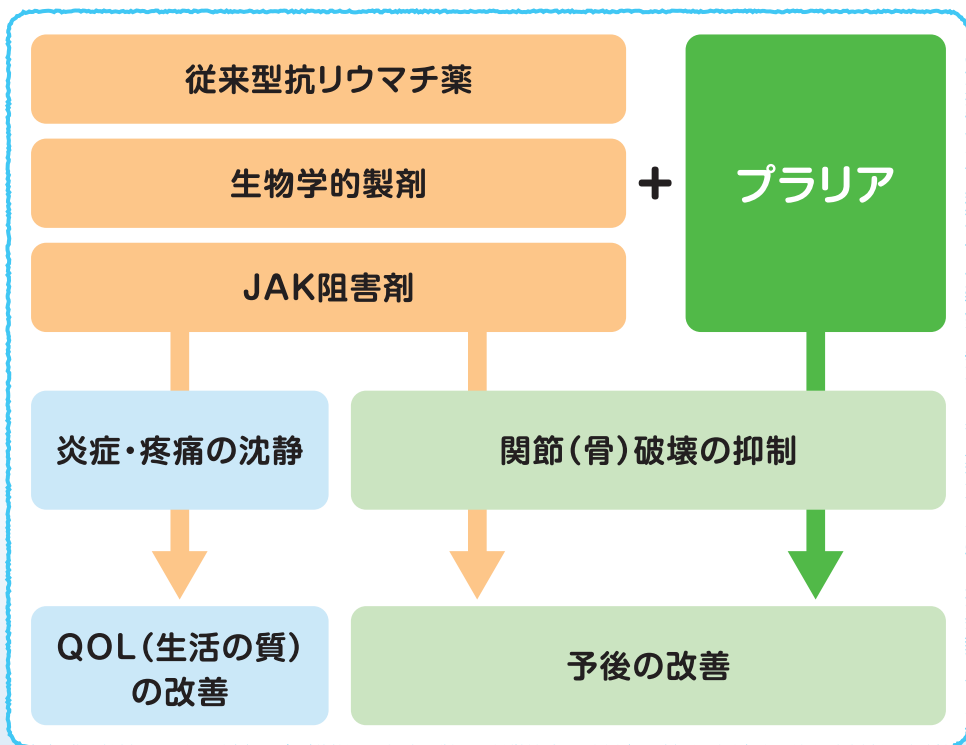
三浦靖史ほか: J Clin Rehabil 18 (2): 102-107, 2009より改変

プラリアは、従来の治療薬と併用することで、
炎症・疼痛および関節（骨）の破壊を抑えます。



プラリアには関節（骨）破壊を抑制する効果があります。プラリアを従来型抗リウマチ薬や生物学的製剤、JAK阻害剤と一緒に使用することで、炎症・疼痛、関節（骨）の破壊を抑え、QOL（生活の質）や予後の改善が期待できます。

● 関節リウマチの治療薬とその役割

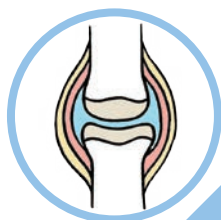


関節リウマチは、骨を壊す細胞を活性化させる ランクルをたくさん発現し、骨が破壊されます。

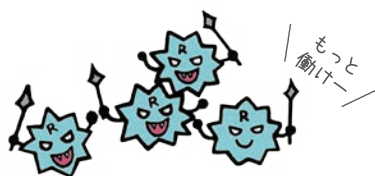


関節リウマチでは、骨を壊す細胞（破骨細胞）が活性化することによって関節（骨）が破壊されます。この破骨細胞の活性化には、「ランクル」という物質が深く関わっています。

● 関節リウマチで関節（骨）が破壊されるしくみ



破骨細胞を活性化させる働きがある「ランクル」という物質



ランクル



破骨細胞



間に合わないよ…

骨芽細胞



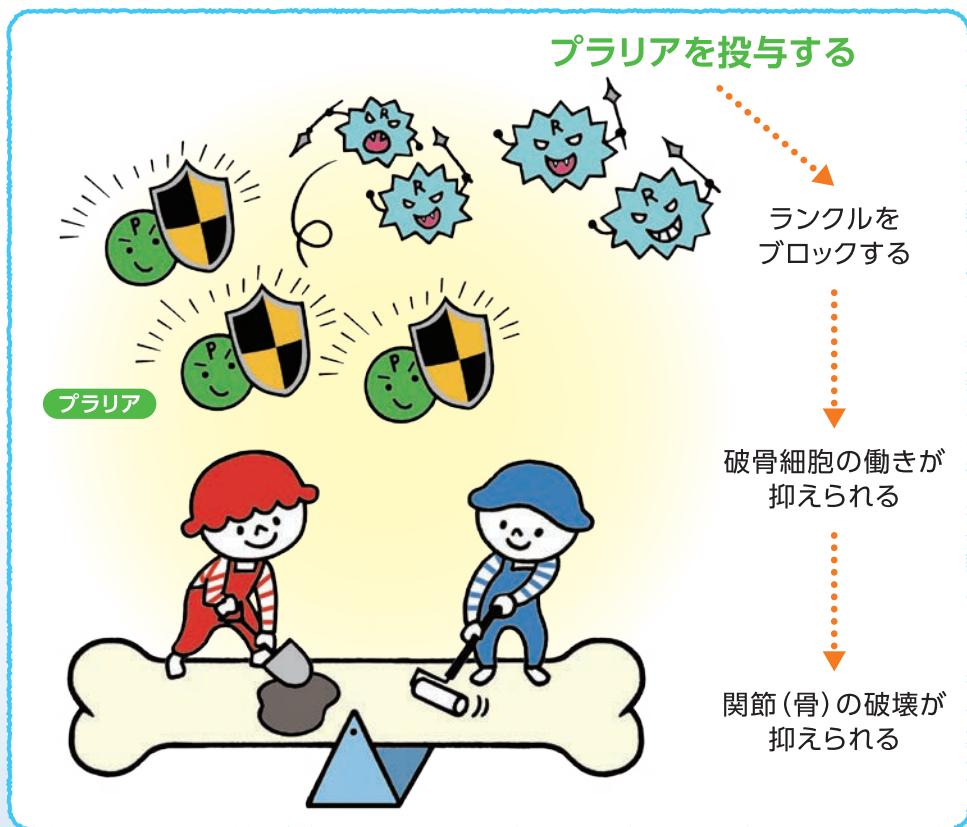
ランクルを受け取った破骨細胞が過剰に働きはじめ、骨が破壊される

プラリアは、ランクルをブロックして 骨を壊す働きを抑えることができる薬剤です。



プラリアには、ランクルをブロックする作用があります。その結果、破骨細胞の活性化を抑え、関節（骨）の破壊を抑制することができるのです。

● プラリアが関節（骨）の破壊を抑えるしくみ

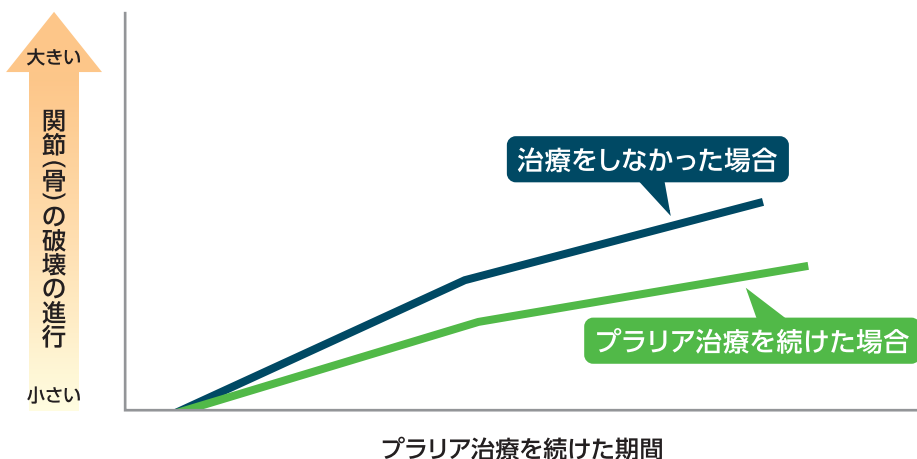


プラリアには、関節（骨）の破壊を抑える 効果が認められています。



関節リウマチ患者さんを対象とした臨床試験において、プラリア治療を続けた場合には、治療をしなかった場合よりも関節（骨）の破壊の進行を抑えることが示されています。

● プラリア治療を続けた場合と治療をしなかった場合の 関節（骨）の破壊の進行（イメージ）



治療しなかった場合に比べ、
関節（骨）の破壊を抑制します。

プラリアは、6ヵ月(3ヵ月)に1回 注射する薬剤です。

プラリア投与



プラリア投与



6ヵ月後
(3ヵ月後)

6ヵ月(3ヵ月)後の投与までに、検査や他のお薬の投薬などによる通院は必要です。医師の指示に従ってください。

プラリアを投与され、 普段と違うことがあれば、ご相談ください。



プラリア治療中に下記の症状があらわれた場合は、
次の受診日を待たずに、医師へご相談ください。

- 手足のふるえ
- 筋肉の脱力感
- けいれん
- しびれ(唇のまわり、手・指など)

※ 低カルシウム血症を起こしているかもしれません。

プラリア治療中に下記の症状があらわれた場合は、
次の受診日を待たずに、医師、歯科医師へご相談
ください。

- あごの痛み
- 歯のゆるみ
- 歯ぐきの腫れ など

※ まれであり、必ず起こるものではありませんが、
あごの骨に異常を起こしているかもしれません。

プラリアを投与されたら毎日、 カルシウムとビタミンDを服用してください。



カルシウム、ビタミンDを 毎日服用してください

- 骨の原料であるカルシウム
- 血液中のカルシウムを増やす働きのあるビタミンDを毎日服用しましょう。

血液中のカルシウムを保つだけでなく、健康な骨をつくるためにも重要なことです。

※ 血液中のカルシウム濃度が高い場合など、カルシウム・ビタミンDの服用が必要ない場合もあります。医師の指示に従ってください。

次のような方は、プラリアを使用できません。

- 過去に、プラリア、ランマークの成分に対して異常な反応を起こしたことがある方
- 低カルシウム血症の方
- 妊婦または妊娠している可能性がある方

次のような方は、プラリアを慎重に使用する必要があります。

- 低カルシウム血症を起こすおそれのある方
- 重度の腎機能障害のある方（低カルシウム血症を起こす可能性があるため）

医療機関名

医師

連絡先



第一三共株式会社